

表2 松江市域寺社伝来の棟札銘にみられる「大工」

郡名	荘郷名	年代	西暦	事項		
意宇郡	意東荘	天正8	1580	「大工渡部次良四郎」	筑陽神社棟札写	中世Ⅱ1767
	掲屋荘	天正11	1583	「大工真杉善左衛門尉藤原親久」	掲屋神社棟札写	中世Ⅱ1857
	八幡荘	永正11	1514	「大工民部由」	平浜八幡宮棟札銘写	中世Ⅱ789
	大庭保	天正11	1583	「先代より番匠大工之事 金田民部」	神魂社造営覚書断簡	中世Ⅱ1834
	岩坂郷	応永10	1403	「大工近藤正作・小工市左衛門」	桑並志多備神社棟札写	中世Ⅰ510
	熊野荘	延徳2	1490	「大工源氏清次」	熊野神社養蚕社棟札写	中世Ⅱ740
	忌部保	元龜3	1572	「大工桑垣太良左衛門」	東忌部大宮神社棟札写	中世Ⅱ1543
		天正20	1592	「大工松浦四郎治郎」	東忌部大宮神社棟札写	中世Ⅱ2046
		慶長2	1597	「大工桑垣五郎左衛門」	東忌部大宮神社棟札写	中世Ⅱ2099
		天正18	1590	「大工今井平次兵衛」	東津田鷹日神社棟札写	中世Ⅱ2015
	津田郷	天文3	1534	「大工金田右京助」「番匠衆今岡民部左衛門尉・福岡四郎左衛門尉」	阿弥陀如来坐像胎内銘	中世Ⅱ857
	来海荘	慶長2	1597	「大工村瀬久左衛門」	上來待村天満宮棟札写	中世Ⅱ2097
	湯郷	永禄元	1558	「大工内田小三郎、仕手源兵衛」「小大工福岡五郎左衛門」	湯姫大明神棟札写	中世Ⅱ1052
	穴道郷	天正13	1585	「大工松浦新兵衛幸次」(天正18幡屋八幡宮造営大工)	祇園社造営棟札銘写	中世Ⅱ1900
	雲津浦	天正17	1589	「大工稲田治良左衛門、小工助三良」	雲津浦諏訪神社棟札写	中世Ⅱ2000
島根郡	美保関	明応5	1496	「大工彦三郎久」	海崎村天神社棟札写	中世Ⅱ762
		永正15	1518	「大工 秀宗」	客神社棟札銘写	中世Ⅱ795
		文禄5	1596	「棟梁静岡長左衛門」「大工佐伯善兵衛」(＝吉川氏配下の大工か)	美保神社棟札	中世Ⅱ2087
	長田西郷	天正6	1578	「大工野津四郎左衛門尉久重」	熊野神社棟札	中世Ⅱ1621
		天正8	1580	「大工高橋藤兵衛尉」	熊野神社棟札	中世Ⅱ1762
		天正2	1574	「大工次郎四郎」	須衛都久神社棟札写	中世Ⅱ1565
	末次荘	慶長4	1599	「大工松本」	照床神社棟札写	中世Ⅱ2120
		天正12	1584	「大工加納次郎四郎」	比津突貫大明神棟札写	中世Ⅱ1870
	法吉郷	天文23	1554	「大工柚木迫熊千代名代細田勘解由同亦次郎」「大工柚木迫又次郎藤原」	北講武八幡宮棟札写	中世Ⅱ1030
	円福寺	天文23	1554	「大工柚木迫熊千代名代細田勘解由同亦次郎」「大工柚木迫又次郎藤原」	北講武八幡宮棟札写	中世Ⅱ1030
	野波浦	天正9	1581	「大工横原四郎兵衛尉」	野波村日御碕神社棟札写	中世Ⅱ1780
	御津	永禄3	1560	「大工 秋山小三郎」	御津神社棟札写	中世Ⅱ1072
	大芦浦	天正10	1582	「大工石川伊助」	字將軍神社棟札写	中世Ⅱ1818
秋鹿郡	長江郷	天正7	1579	「大工竹田弥右衛門」	国主大明神棟札写	中世Ⅱ1652
	岡本保	永禄9	1566	「大工竹田藤原清久」	多太神社棟札写	中世Ⅱ1233
		天正8	1580	「大工竹田清久」	多太神社棟札写	中世Ⅱ1768
		文禄3	1594	「大工田島宗兵衛清秀」	足高大明神棟札写	中世Ⅱ2074
	大野荘	文禄5	1596	「大工田島宗兵衛清秀」	足高大明神随神門造営棟札写	中世Ⅱ2086
		慶長5	1600	「大工田島宗兵衛」「小工小山四郎左衛門」	高宮社棟札写	中世Ⅱ2124
		慶長5	1600	「大工田島惣兵衛」	足高大明神棟札写	中世Ⅱ2126

表2＝中世の島根郡・秋鹿郡・意宇郡内の寺社造営等における「番匠大工」

多くは各郷村等ごとに大工の名字が異なっており、番匠大工をつとめることが可能な技術をもつ職人たちが、地域の中に数多く存在

(6)鍛冶 ＝「鍛冶大工」としての技術をもつ職人が地域の中に数多く存在

永禄元年（1558）湯郷湯姫大明神造営 「長谷川帯刀」（中世Ⅱ 1052）
永禄3年（1560）御津小島大明神造営 「田中弥兵衛」（中世Ⅱ 1072）
天正9年（1581）野波浦日御崎社造営 「青戸六郎左衛門」（中世Ⅱ 1780）
天正13年（1585）宍道郷祇園社造営 「長野六郎左衛門清家」（中世Ⅱ 1900）
慶長2年（1597）東忌部大宮造営 「鍛冶屋又三郎」（中世Ⅱ 2099）
文禄～慶長期 大野荘「山崎次郎兵衛」（中世Ⅱ 2074・2086・2124）

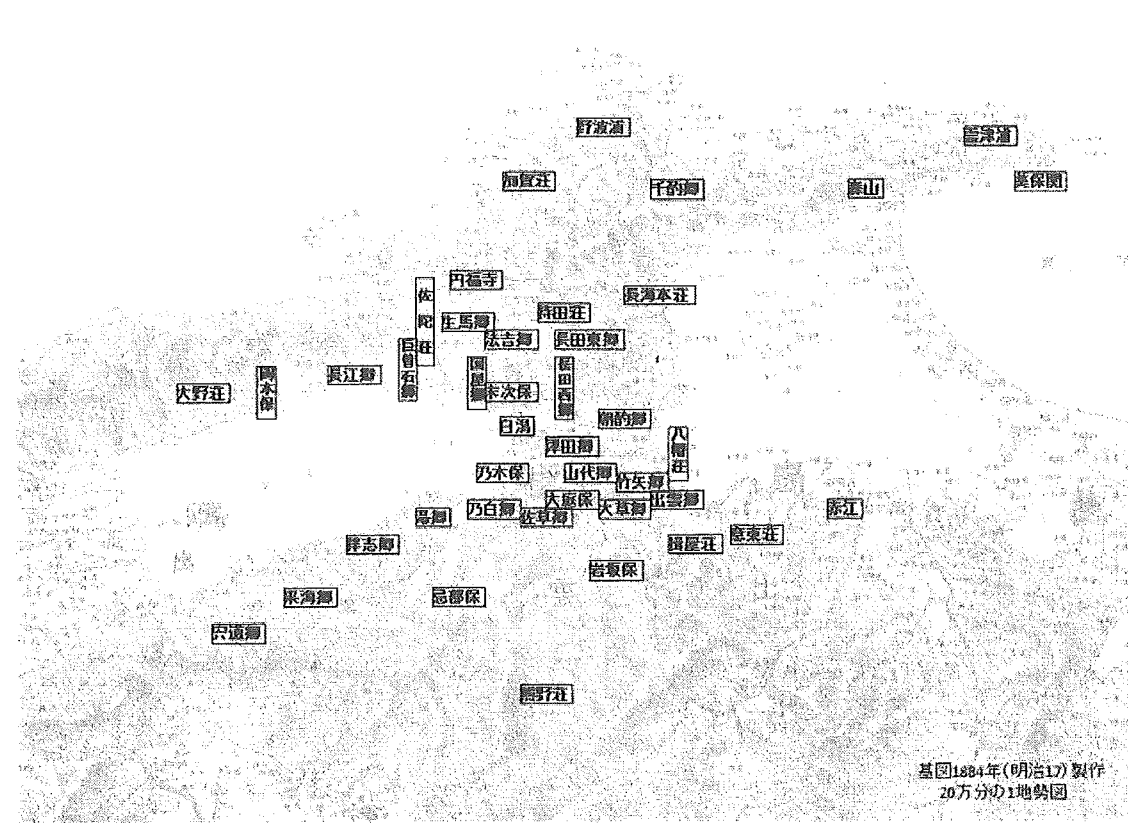
(7)白濁・末次の職人たち 永禄年間の「磨師・塗師・鞆師・銀細工」



おわりに

◎現在の松江地域周辺において、中世に展開された多様な生業の背景には、おそらく島根半島周辺に特徴的な水運と港湾都市の発展があったものと推測される。水運の発展が、様々な生業の成立・維持を促し、生業の展開が水運を含む物流・交流の日常化・広域化を促したと考えられる。

◎中世における多様な生業の展開、日常的な交流・物流の広域化、信用関係の形成、貨幣経済の浸透、市場や港湾都市の形成・成長、「一揆」「自検断」「自力救済」に見られる高度な自律性などは、生産力向上による余剰生産物が生み出したものというよりは、過酷な条件を生き抜くための智慧と工夫が生み出したものとみるべきか。



【主な参考文献】

網野善彦『日本中世の民衆像』（岩波文庫、1980年）

網野善彦『日本中世の非農業民と天皇』（岩波書店、1984年）

磯貝富士男『中世の農業と気候』（吉川弘文館、2002年）

井上寛司「中世山陰における水運と都市の発達」（有光友学編『戦国期権力と地域社会』吉川弘文館、1986年）

井原今朝男編『環境の日本史3 中世の環境と開発・生業』（吉川弘文館、2013年）

栗林文夫『『廻国通道日記』について』（『黎明館調査研究報告』第26集、2014年）

清水克行『大飢饉、室町時代を襲う！』（吉川弘文館、2008年）

関周一『朝鮮人のみた中世日本』（吉川弘文館、2013年）

長谷川博史『中世水運と松江』（松江市ふるさと文庫15、2013年）

原田信男『歴史のなかの米と肉』（平凡社、1993年）

廣山堯道『日本製塩技術史の研究』（雄山閣出版、1983年）

松下正司編『よみがえる中世8 草戸千軒・鞆・尾道』（平凡社、1994年）

峰岸純夫『中世 災害・戦乱の社会史』（吉川弘文館、2001年）

山本武夫『気候の語る日本の歴史』（そしえて文庫、1976年）

横井清『中世民衆の生活文化』（東京大学出版会、1975年）